



一般社団法人

タウンスペース WAKWAK

2018年度 事業計画

## 基本理念

すべての人に居場所と出番がある社会、すべての人がSOSを発信でき、互いに支え・支えられる社会、新しい公共としての住民主体による「自立」「参加」「協働」による地域の再生と互いに絆を結び合えるつながりの地域社会をめざすことを目的とする。

## 基本方針

- 1) 支援を必要とするひとりぐらし高齢者、障がい児者、子育て家庭や若者への支援サポートだけでなく、新たな雇用や居場所づくりなどひとりひとりの生活に合わせたまちの姿をランドデザインし、住民自らの参加と協働によるまちづくりをめざす。
- 2) まちのわくわくを創造するコミュニティスペースとしての役割も大切にしながら、「出会い・つながり・元気を創造する地域福祉」「それぞれのライフステージを補完するまちの仕組みづくり」をめざす。
- 3) 福祉と人権を基調にした市民活動の促進を通して、市民活動団体と地域社会とのネットワーク構築事業、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進事業、その他、当法人の目的を達成するために必要な事業を行う。

## 重点課題

### 1) 財政基盤の安定化-持続可能な社会的企業-

2017年度当初、これまで（2012年法人発足から2016年度まで）の「助成金、基金中心の財政基盤」からの変革を図るため「事業収入、寄付金収入中心の財政基盤」への移行を掲げ、一定の財政基盤の安定化が図られてきた。その成果をふまえ、2020年を目途に安定的かつ継続的な事業運営体制を確立する。

### 2) 新たな公共を担う専門性の担保と多職種連携のためのノウハウ

市内外の多職種さまざまなノウハウをもつ人材や大学の研究者、ベテラン世代を発掘し、法人運営はもとより様々な事業への参画につなぐことで多職種連携基盤のノウハウと人脈、新たな公共を担うための専門性の担保を図る。

### 3) 次世代の育成

#### ①重点1 大学との連携

近隣の大学と連携を図る中で大学生をはじめ若年層の人材を発掘し事業への参画につなげながら、まちづくりを活性化していく。

#### ②重点2 若年層の長期的な育成

さまざまな事業を安定的に運営していくため事業担当制やインターンの受け入れ、役割の委譲など経験年数や段階に応じ長期的な若年層の育成を行う。

### 4) 地域が長年培ってきた包摂の文化×地域共生社会の風

富田地域が長年培ってきた包摂の文化を基盤としながら厚労省が掲げている「地域共生社会」の風をつかみ、子ども分野で実践しているセーフティネットの仕組みをまちのあら

ゆる課題をもつ人たちを支える仕組みへと5か年で進化させる。

### ①重点1 包括的相談支援体制の確立

制度や教育、地域からこぼれ落ちがちな層や複合的な困難を抱えるケースの解決のために多職種が連携して支援を図る仕組みを構築する。

### ②重点2 社会貢献プロジェクトの立ち上げ

近隣施設と連携し社会貢献プロジェクトを発足し、制度のはざまに陥る子どもたちの重層的な支援構築をはかる。

### ③重点3 多職種の連携基盤づくり

縦割りを超え、丸ごとの支援を図っていくために地域、家庭、学校、行政、大学、企業との多職種連携のネットワークを事業の実践を通じて構築する。

以上の基本理念・基本方針・重点課題をふまえ、以下の事業を行う。

## 1. 法人運営事業

### 1) 会員拡大

各種事業の場や広報活動を通じ、本法人の目的に賛同し、ともに活動を進めようとする正会員および賛助会員の加入促進を図る。

### 2) 理事会、社員総会および企画運営スタッフ会議の開催

- ・理事会の開催 5月、9月、12月、3月の年4回
- ・社員総会の開催 5月、3月の年2回

- ・企画運営スタッフ会議 随時開催

### 3) 情報発信活動

- ・リーフレットおよび情報誌「WAKWAK通信」(年3回 4月、9月、2月の発行)
- ・「タウンスペースWAKWAK」HP (URL : <http://wak2.jimdo.com>) やフェイスブックページの更新などインターネットを通じたリアルタイムの発信に努める。

### 4) 経営・財務管理

持続的な活動を担保していくための経営計画と適切な財務管理を行うとともに、事業収入の増加、寄付金先の開拓、民間助成金の積極的活用、クラウドファンディング、インターネットによる寄付サービス、チャリティグッズの販売をするなど事業の安定的基盤づくりを行う。

### 5) 役員体制・事務局体制の充実化

新たな公共を担うための専門性の担保と多職種連携のためのノウハウや人脈づくりのため事務局体制強化および理事体制のさらなる充実化を図る。

### 6) 人材育成

- ・次代のWAKWAKを担う人材の確保と育成にむけ長期的視野でとりくむ。
- ・インターンの受け入れの導入などを検討する。

## 2. 協働交流・調査研究開発事業

### 1) ネットワーク構築、他団体との協働

WAKWAKが実施する各事業をはじめ、地域社会とのネットワーク構築、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進を推進する。

### 2) 調査・研究

- ・社会貢献事業を安定的に持続していくための新規の収益事業についても研究を進める。

## 3. 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業

### 1) 地域福祉グランドデザインづくり事業

- ・「富田富寿栄住宅建て替え基本構想（2014年3月）」をうけ、基本計画・実施計画策定への協議を促進する。
- ・地域福祉グランドデザインづくりに向け、自治会・居住者組織の再生による「富田まち・くらしづくりネットワーク」の活性化と再構築を図る。あわせて、「富寿栄住宅建替研究会・入居者委員会」の活動強化、先進事例に学びながら取り組みの見える化を促進する。
- ・建て替え計画が単に建て替えのためだけの計画になることなく、地域コミュニティの再生や子どもから高齢者の包括支援の仕組みとなるよう先進事例を学びながら研究を進める。

## 2) 生きがいと居場所づくり事業

### ① ボーダレスアート事業

- ・障がいのある・ないの垣根を取り払い、アートを通じて楽しみながら人との交流を通じ、豊かな心を育みながら自己表現を行う事を目的として、「ボーダレスアート事業—わんだーぼっくす」を開催する。また、ボーダレスアート展の開催、各種公募展への応募等を行うじて素晴らしいアート作品の発信を行っていく。

○ボーダレスアート展

○期間：月2回 土曜日 午前10時～12時 （前期は5月～10月、後期は11月～3月）

○場所：富田青少年交流センター（予定）

### ② コミュニティスペース「おはなカフェ」事業

- ・地域で子育て・高齢者・障がい児者支援や多文化共生に関わってきた女性たちが中心となって運営する「おはなカフェ」事業の充実をめざす。
- ・とりわけ、子育て中のママさんや子どもたちへの支援の場の提供を図る。
- ・高齢者会食事業の充実等をはじめ、知的障がい者支援施設「サニースポット」内の喫茶「クローバー」のオープンカフェ化への積極的活用を図る。

## 3) ひとりぐらし高齢者・障がい者・若者支援事業

### ① コミュニティソーシャルワーク事業

- ・相談・アウトリーチ：高槻市立第四中学校区を単位として、子どもから高齢者など様々な生活における困り事を抱える方の課題の解決をするため地域内施設、学校等と連携

し相談支援・アウトリーチを行う。

- ・包括的相談支援体制の構築：制度や教育、地域からこぼれ落ちがちな層や複合的な困難を抱えるケースの解決のために多職種が連携して支援を図る仕組みを構築する。

## ②地域支え合い(家事代行支援)事業

- ・高齢・障がい者世帯の困りごと(ニーズ)を集約し、家事代行支援サービスの実施に向けて地元関係機関との協議を促進する。
- ・社福つながり、NPO法人ニュースタート事務局関西と連携しながら支援サービスのメニュー化とサービス実施体制の検討を行い、地域支え合いのあらたな仕組みづくりを試行的にスタートさせる。
- ・あわせて障がい者やニート・引きこもり等のいわゆる就労困難者に視点を当てた中間的就労の場づくりに向けた取り組みを行う。

## ③ライフサポート(市民後見)事業

- ・ひとりぐらし高齢者、親亡き後の障がい児者の財産管理を含めた生活支援・相談事業を行うと共に、市民後見人の活動支援を行う。

## ④障がい者グループホーム整備事業

- ・ライフステージを補完するまちの仕組みづくりをめざし、社福つながりおよびつながり後援会ひだまりとの協働で地域福祉グランドデザインづくりを行う。
- ・障がい者グループホーム開設をふまえ、社福つながり及びつながり後援会・家族会ひだ



まりと共に、利用者主体のホームづくりに取り組む。また、女性のグループホーム整備についても今後の富寿栄住宅建替え計画とも連動しながら協議を進める。

#### 4) 青少年・子育て支援（こどものあゆみバックアップ）事業

2014年からはじまった学習支援事業の延長として、昨年二つの子ども食堂をスタート。この事業を地域社会全体で取り組んでゆくため地域、家庭、学校、行政、大学、企業との多職種の連携をしながら子どもたちが「ただいま～」と言って安心して帰ってこられるような居場所をつくる。

##### ■学習支援事業

- ・生活困窮家庭の子どもたちをはじめ様々な課題をもつ子どもたちへの学力保障と居場所づくりを目的に学習支援事業を行う。
- ・近隣大学と連携しながら学習支援に関わる大学生講師の確保と人材育成に力を入れる。

○学習支援わんぴーす

○期間：毎週2回（月・水 午後7時～9時）

○場所：富田ふれあい文化センター（予定）

○対象：第四中学校区の中学生 およそ15名

○受講料：12,000円/月 ※生活保護受給家庭・ひとり親家庭等 6,000円/月

##### ■「富田わくわく食堂（子ども食堂）」

○趣旨：地域に住む多世代、子どもから高齢者までが交流する拠点として共生食堂を

開催する。

- 期間：春・夏・冬休みなどにそれぞれ1回開催予定
- 場所：富田ふれあい文化センター（予定）・社会福祉法人つながりほか
- 対象：地域に住む子どもから高齢者まで誰でも
- 連携：地域、家庭、学校、行政、大学、企業との多職種の連携により実施

### ■「富田ただいま食堂（子どもたちの夕刻を支える場）」

- 期間：毎週1回（水）の学習支援の前 午後5時半～午後7時
- 場所：富田ふれあい文化センター（予定）
- 対象：顔の見える関係性を大切にするため当面は学習支援を受講する中学生の姉妹・兄弟を対象とする。10名前後
- 参加費（食費）：子ども300円 大人500円

### ■緊急時の一時避難場所となる夜の子どもの居場所づくり

- 趣旨：虐待等深刻な状況に陥った際に切迫した状況の家庭と公的サービス（ショートステイ・一時保護所など）の制度のはざまに陥る子どもたちを支援することを目的に、近隣の施設等と連携しプロジェクト発足し支援方策の検討と事業の立ち上げを行う。
- 期間・内容：社会貢献プロジェクトを立ち上げ、4月から1年間をかけて、先進的に事業を行っている場の視察や従事者の学習会、実際の事業化に向けた検討会を行う中で、富田地区に一番適したスキームを決定し居場所をつくり上げる。
- 勉強会開催場所：富田ふれあい文化センター（予定） ほか

○対象：近隣施設とプロジェクトの有志を募りプロジェクトメンバーを構成 10名前後

### ■子どもの貧困学習会の開催

さまざまな課題を持つ子どもたちや制度のはざまに陥る子どもたちの支援の幅を地域内全体にすそ野を広げていくべく子どもの貧困連続学習会を開催する。

## ③社会的養護で暮らす子どもたちのエンパワメント事業

### ■児童養護施設の子どもたちを対象としたプログラムの実施

虐待や一人親、障がいなどの社会的、経済的事由により児童養護施設に通う児童（社会的養護で暮らす子どもたち）を対象に自然体験活動を行う中で、生きる力や対人関係形成力、自己肯定感を継続的に育む事業を実施する。

○時期：2月から3月 予定

○対象：高槻市内の児童養護施設の子どもたち（小学生・中学生）

○場所：摂津峡青少年キャンプ場（予定）

### ■児童養護施設プログラムのためのボランティア・スタッフ研修の実施

将来、学校の教職員や児童養護施設など教育関係や福祉、対人援助職を目指す学生を対象に、研修や実践を通して虐待や発達障がいに対するより深い理解と実践力を育む。

○テーマ：子どもたちの行動の背景にあるものに寄り添うために

○時期：11月～3月 予定

○対象：将来、教職員や福祉職などの教育関係、対人援助職を目指す学生 約 15 名

○場所：富田ふれあい文化センター及び摂津峡青少年キャンプ場（予定）

#### ④富田ふれあい義塾の活動支援

- ・青少年の荒れからの再生をめざし活動している「富田ふれあい義塾」との連携、活動支援を引き続き行う。

### 5) 人材育成事業

#### ①連続講座「富田ものがたり」の開催

富田地域内施設において業務として従事する方（行政職員、学校、幼稚園、保育所等教職員、民間施設職員等）やボランティア活動を行う方々を対象に、富田地域の特性や施設、団体の設立の背景や歴史に対する知識を深める連続講座を開催する。

#### ②マンパワーの発掘とまちづくりへの参画

- ・まちの達人発掘、コミュニティボランティア育成のための研修事業を行う。
- ・近隣の大学等と連携しながらまちづくり全般に対して携わる学生を発掘し学習支援わんぱーすや子どもたちの夕刻を支える場、児童養護施設のプログラム等 WAKWAK が行う多種多様な事業（実践現場）へつなぎ育成を図る。
- ・多様な講座開催を通じて若年層を発掘し育成を行う。

## 4. その他事業

### 1) 事務受託事業

部落解放同盟高槻富田支部、富田富寿栄老人会、富田地区企業者組合、社会福祉法人つながり後援会・家族会ひだまり、人権ネットワークの5団体からの事務受託事業を引き続き実施する。

### 2) 富田地区視察の受け入れおよび講師派遣事業

・市内外や他府県の行政機関や福祉施設等へ役員や職員が講師として積極的に出向き、人権啓発の推進や地域福祉の向上を図る。また、そこで得る報償費（収益）を法人の安定的な基盤づくりに寄与するとともに法人の社会貢献事業へと循環する。

・これまで行ってきた富田地区視察の受け入れを積極的に行い、受け入れメニューのさらなる充実も併せて図る。

### 3) マイノリティ・スタディツアーの準備

アメリカ・サウスダコタ州アメリカ先住民居留区スタディツアーの準備

・次年度以降に開催予定のアメリカ先住民居留区へのスタディツアーの開催に向け下見をはじめプログラムの準備を行う。

○時期：5月及び8月

○行先：アメリカ・サウスダコタ州シャイアンリバー先住民居留区およびパインリッジ先住民居留区ほか

○その他のツアー先についても検討するとともに旅行業取扱管理者の取得も検討する。